

道伝えの日 芭蕉忌句会 入賞句

○兼題句「木枯」

・俳誌『飛驒』代表 小鳥幸男選

〔推選〕

一七、木枯や駅のホームの非常ベル

非常ベルが冬来る不安定感を強調

柴田 恭子

二九、木枯<sup>ぬし</sup>や塗師<sup>ぬし</sup>の散らせる金砂子<sup>きんすなご</sup>

素材、流れ共に美し句

下垣内 町子

六五、木枯や弟たちに名はつけず

北風小僧 勳太郎 木枯し 紋次郎とか

伊藤 秀雄

・互選

〔一席〕

一八、木枯や目に微笑みの六地藏

野口 喜代男

〔二席〕

二〇、木枯らしや海一面にシヨパンの譜

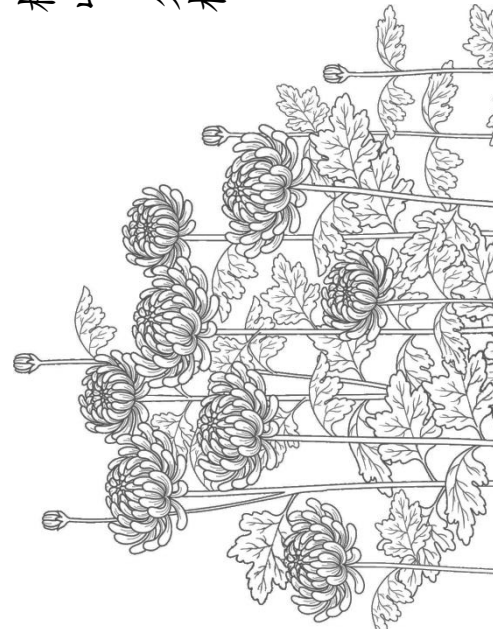
谷口 茂雄

三五、木枯がこがらしを追ふ峡の道

曾出 きよの

三七、木枯や星をはなさぬ鬼瓦

桐山 久枝



道伝えの日 芭蕉忌句会 入賞句

○ 当季雑詠句 (秋・冬)

・ 俳誌『飛驒』代表 小鳥幸男選

〔推選〕

三、 亡き人に声かけて出る良夜かな

伊藤 浩子

良夜の季詠が良い効せらる

一五、 かがやいてすぐ暮れにけり小六月

谷口 ふさ子

季詠の特性を逆手に取った手法

六一、 芭蕉忌にまゐらすお茶の香りかな

黒川 みつ恵

俳句らし俳句

・ 互選

〔一席〕

六二、 夕星や田に撒き終へし今年藁

中田 由紀子

〔二席〕

三、 亡き人に声かけて出る良夜かな

伊藤 浩子

二三、 干し物と共に取り込む小春かな

横山 美保子

〔三席〕

三三、 水音のどこかにありて紅葉坂

尾崎 淑子

六四、 縁側に座布団二つ小春かな

保木 信子



俳誌『飛驒』代表 小鳥幸男選

〔飛驒神岡高等学校〕

入賞	秋の海心音のごと揺れてをり	二年	濱本 <small>はまもと</small>	蔵人 <small>くらと</small>
〃	生まれては土に帰りし彼岸花	一年	清水 <small>しみず</small>	千聖 <small>ちさと</small>
〃	熱爛を飲む親横目にココア飲む	一年	西野 <small>にしのみ</small>	愛美 <small>まなみ</small>
〃	人一人歩くための雪を搔く	一年	小屋 <small>こや</small>	晴穂 <small>はるほ</small>

〔吉城高等学校〕

入賞	冷まじや缶 <small>すき</small> コーヒを頬にあて	三年	白山 <small>しろやま</small>	穂高 <small>ほたか</small>
〃	手を横に茶の葉のごと朝の礼	一年	駒屋 <small>こまや</small>	めぐみ
〃	蜜柑むき香まとう手を洗わずに	一年	和田 <small>わだ</small>	桃佳 <small>ももか</small>
〃	野分来る休校願う高校生	一年	水上 <small>みずかみ</small>	可奈子 <small>かなこ</small>

